

第3回 (仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会 議事概要

《日時・場所》

- 1 平成 23 年 7 月 11 日 午後 6 時～午後 8 時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎 5 階 庁議室

《次第》

- 1 開会
- 2 委員紹介(第1回、第2回懇談会を欠席された委員について)
- 3 第2回懇談会の議事概要
- 4 前回までにあがった主な論点
- 5 議題
(1)地域コミュニティが活性化している状態等について
- 6 その他

《出席者》

大垣喜久江委員、岡田尚子委員、小川善昭委員、小美濃千鶴子委員、加藤政春委員、鈴木恭一郎委員、玉井弘子委員、玉野和志委員、田村哲明委員、戸田了達委員、浜屋光正委員、原秀年委員、樋口謙次委員、平田稔委員、森本陽子委員、渡邊裕委員

(区出席者) 区民生活事業本部長、産業地域振興部長

(事務局) 地域振興課職員 5名

(傍聴者) なし

1 開会

座長

- ・第3回地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会を開催する。
- ・まずは、第1回、第2回の懇談会に欠席された委員の方に自己紹介をお願いしたい。

2 委員紹介

- H委員による自己紹介
- I委員による自己紹介

座長

- ・事務局から関連事項の報告をお願いします。

事務局

- 資料1の説明
- ・区民生活事業本部産業地域振興部地域振興課長が6月29日付けで異動があったので事務局名簿を修正した。
- ・地域振興課長より挨拶させていただく。
- 地域振興課長挨拶

3 第2回懇談会の議事概要

座長

- ・第2回懇談会での議事概要について、事務局から確認をお願いします。

事務局

- ・第2回懇談会議事概要について、各委員には事前に送付させていただいた。現時点で修正などのご意見はいただいているが、加筆・修正等があればお出しいただきたい。
- ・何もなければ、今後、区のホームページで公開していく。

4 前回までにあがった主な論点

座長

- ・事務局より、第2回懇談会議事概要について、本日の議論につながる意見を整理した部分を中心に簡単に報告していただきたい。
- ・前回までの議論を思い出しながら、今回の検討事項である「地域コミュニティが活性化している状態等」の議論につなげていきたい。

事務局

- 第2回議事概要により、論点の説明

座長

- ・第1回、第2回懇談会では委員の方々からコミュニティの活性化について様々なご意見をいただき、意見交換をしてきた。その中から、いくつかの論点にしぼって議論を

進めていくことになった。

- ・本日の議事次第の参考に4点挙げられている。
- ・「地域コミュニティが活性化している状態について」は本日議論を行い、目指すべきコミュニティの活性化像を共有化していきたい。
- ・8月の懇談会では、「町会・自治会について」を中心にコミュニティの活性化を議論する。
- ・9月の懇談会では「町会・自治会以外の地域活動団体、地域活動団体のつながりについて」議論をしたいと考えている。
- ・「地域活動に参加していない(または、参加できない)区民について」は、9月までの議論の中でもご意見をいただきながら、時間が足りない場合は9月以降も含めて議論を進めていく。

5 議題

(1) 地域コミュニティが活性化している状態等について

座長

- ・本日は、区が考える地域コミュニティが活性化している状態を題材にしながら、各委員のそれぞれの立場でのご意見をいただきたい。
- ・まずは、区が今回の懇談会を設けて施策を進めていくことを考えた際に、地域コミュニティが活性化している状態として、どのようなイメージを持っていたのかを紹介してもらいたい。

事務局

- 資料2の説明

座長

- ・区が考える「地域コミュニティが活性化している状態(イメージ)」について説明してもらった。区の考えがある程度分かったと思うが、私達が懇談会で検討することでさらに肉付けをしていくことになる。
- ・懇談会として検討し、合意されたものについては、懇談会の提言として、強調すべきことや実現して欲しいことなど、メリハリを付けることができると考えていただきたい。最終的な提言のイメージについてはもう少し後で相談させていただく。
- ・本日は、地域コミュニティが活性化している状態を中心に意見交換をしていきたい。
- ・まずは、H委員、I委員に、PTA活動の中で困っていることや、このような状態になれば良いと思っていること、あるいは、他の団体と連携するうえで思いつくことなどについて、発言をお願いします。

H委員

- ・小学校のPTA会長は今年で2年目である。PTAの中でも度々議論になることだが、役職を引き受けてくれるお母さんはいるにはいるが、ほとんどの方が役職に就きたく

ないため、一部の方に集中してしまう。役職を順番に引き受けてくれば、色々な事を知ることができて良いが、なかなかそのようにはならないところが難しい。

- ・ただ、現在の役員が楽しそうでないと、次に役員を引き受けてくれる人はいないという話をしている。役職を引き受けた以上は、今年1年間を楽しもうという話をしている。関わっている人が楽しそうでないと人は集まって来てくれないと思う。そのような雰囲気をつくるのが大事だと考えている。
- ・「参加しなければいけない」とか「こうすべき」など、理想論やべき論が先行すると、何となく面倒くさそうで、参加する意欲が無くなってしまう。たまたま参加してくれた人には感謝の気持ちを持って接し、参加してくれない人がいても、自分達の仕事を楽しく坦々とこなして行くぐらいが良いと思う。
- ・また、資料2の地域コミュニティを活性化するための方策に、地域活動団体のネットワークを形成するとあるが、既に区内ではたくさんの団体同士のネットワーク、合同会議がある。一つの役職に就くと、様々な会議に出席することになり、出席している人には負担感がある。合同会議のような形ではないネットワークができると良い。

座長

- ・次にI委員に発言をお願いします。

I委員

- ・地域コミュニティとの関係の中で、中学校が置かれている現状を踏まえて話をすると、区が平成15年度ぐらいから始めている学校選択制との関係がある。これは、地域外でも区内の中学校であれば、どこの中学校へも行けるという制度である。
- ・私の住む地域は、埼玉県との境に位置している。小学校も何校かあるが、選んで好きな中学校に行けるとなると、子ども達が地域外に流出してしまう。中学校間でもお互いに生徒から選択されなければならないというような微妙な関係がある。また、中学生になると部活動が重みを増してくるので、部活動が活発な学校を選んで行くこともある。私の地域では光が丘方面の学校を選択している傾向が強い。
- ・これにより、小学校で築き上げてきたPTAのコミュニティが、中学校の段階で地域外へ流出してしまう。本来なら町会の活動や地域の行事を支える人達が、全く違う地域に行ってしまう。その結果、中学校のPTA組織自体が弱体化しているのではないかということを感じている。
- ・地域コミュニティについて、練馬区全体を一つの地域として活性化していくのか、それとも、土支田、大泉町などの小さな範囲での地域コミュニティが活性化することで、区全体のコミュニティを活性化していくのか。区がどのように考えているのか興味があった。中学校のPTAをやっている、小さな範囲でのコミュニティを考えていかなければならないと感じている。
- ・小学校では地域の方々に周年行事など本当にお世話になることが多かった。中学校になると、学校選択制も含めて子どもが離れてしまうので、小学校のPTAのコミュニ

ティとは違ってくる。

- ・区内のある小学校では70名の卒業生のうち、20名しか地域内の中学校に行っていない。50名が地域外に流出している。教育委員会でも取り上げていただきながら是正してもらっているところである。
- ・PTAは、一般の区民が子どもを通じて地域活動に関わるための大きな窓口である。委員の中でも、PTA活動から地域で色々な活動に携わるようになった人もいると思う。そういう意味でPTAは重要だと考えている。
- ・そうした中で、中学校の置かれている現状というものがある。地域コミュニティの活性化を考える時に、練馬区内の中学校に行き、その中でコミュニティが活性化すればそれで良いのか。それとも、住んでいる町なのか、それよりも広い範囲なのか、あるいは、更に広い範囲なのか。一番大事な部分はどこなのかを考えてもらいたい。

座長

- ・I委員から、重要な問題が出てきたと思う。この懇談会でどこまで議論することが可能なのかということもあるが、非常に重要な問題でもある。
- ・今のような意見を含めて、まずは色々気にせずにご意見をいただきたい。
- ・次にJ委員に発言をお願いします。

J委員

- ・小学校で学校応援団の団長をしている。学校応援団の団長の前におやじの会の会長をしていた。おやじの会に入ったきっかけは、お母さん方は学校に関わっている人が多いが、お父さんは少なく、男手も必要だという話から始まった。今回、東日本で大災害があったが、「もし災害があった時にお父さん達が烏合の衆ではしょうがない」ということで、こうした会を通じて知り合いになっていくことになった。
- ・学校の防災訓練などには、おやじの会の会員が参加している。これには在校生の父親だけでなく、OBの方も含めて参加している。これも地域コミュニティの一つであると考えている。こうした方とは、地域でお互いに挨拶をしている。また、子ども達も挨拶してくれる。
- ・このような経緯あり、区と協力をしながら、春日小で学校応援団をつくることになった。学校応援団をつくる時には、町会や地域の方々にも声をかけた。在学生の保護者はもちろんのこと、保護者のおじいちゃんやおばあちゃん、春日小のOBやOGの方など、20歳ぐらいから70歳ぐらいまで幅広い年代の方が集まった。こうした動きも地域コミュニティの一つではないかと思う。
- ・また、私は消防団にも属しているが、目的が違う団体とつながるのは、意思の疎通が取りづらいため、難しいところがあると感じている。
- ・町会などを支えてきた方は、年配の方が多いが、春日町の町会は、若い人も参加してきており、そういう意味では、ある程度活性化してきているのではないかと感じている。

座長

- ・その他、自由にご意見いただきたい。

D委員

- ・コミュニティについて、特に最近感じることは、練馬区のコミュニティは私達の周りではものすごく活性化しているということである。地域で何かおかしい行動をすると翌日にはみんなが知っている。特に幼稚園のお母さん方のコミュニティや小学校のPTAのお母さん方ネットワークはすごいと思う。
- ・小中学校のPTAは、20歳代後半から40歳代の方々がメインである。青少年育成委員会は、40歳代半ばから50歳代がメインである。それを卒業すると、町会長や町会の婦人部を担っていくという人が多い。どうしても団体間のジェネレーションギャップがありつながりにくい。
- ・もう一つは、問題や目的意識が違うため、これら団体をつなげることは難しいと思う。個々のコミュニティは活性化しているが、これらのコミュニティをネットワーク化するとか、問題意識を一つにまとめていくとかいうことが、これからの議題であると考えている。

座長

- ・今の意見は、個々のコミュニティについては活性化しているので、心配しなくても良い。問題は、個々のコミュニティがつながること、ある課題について複数のコミュニティが結集することが簡単ではないので、それがスムーズにいくような状態が、コミュニティの活性化した姿というご意見である。
- ・他に意見はあるか。

E委員

- ・今回の区の資料には「顔の見えるつながり」という言葉があったので安心とした。
- ・地域には、子どもがいるという前提のコミュニティだけでなく、子どもがいない世帯、老夫婦だけの世帯、長くその地域に住んでいる方もいればそうでない方もいる。
- ・地域コミュニティを考える場合、お隣の方やそのまたお隣の方とのつながりを広げていくことが必要であると思う。
- ・子どもがいる場合、幼稚園や保育園、小中学校などを通じてのつながりは、どの地域にもある。また、NPOやボランティア団体などのつながりもたくさんあると思うが、基本は「顔の見えるつながり」であり、町会・自治会が基盤となるのではないか。点のつながりではなく、近隣で子どもがいない老夫婦だけなどの世帯も含めて、日頃からつながりを持っていくことが大切だと思う。

座長

- ・町会が基盤という意見があったので、町会に関連した意見を伺いたい。

B委員

- ・最近、町会の地域に新しく19世帯が転入をしてきた。ほとんどが30歳代から40歳代

で、子どもがいる世帯だった。町会への加入をお願いしたところ、1軒だけはその場で加入してもらったが、残りの世帯はまだ回答がない。

- ・ 前回は話をしたが、町会の役員や会員が高齢化していることが大きい。
- ・ 私達の地域で町会と他の団体が一緒に盛り上がるができるのは地区祭である。私達の地区は小学校3校と中学校1校があり、小学校3校が持ち回りで地区祭を行っている。約3,000人の参加者がある。
- ・ 地区祭の実行委員会には、他の町会も加わり、青少年育成委員会、民生委員、PTA、商店街の方など全部で50人くらいが集まって地区祭の準備をする。その時には非常に盛り上がる。ただ、町会の加入には結びつかないところが悩みである。
- ・ 練馬区町会連合会は、旧出張所の管轄単位で17支部を立ち上げた。この17の支部会には、町会連合会に入っていない町会・自治会も含めて全ての町会・自治会が参加するので、区からの情報は、その支部会を通じて地域へ流すようになった。従来は町会連合会に入っている町会・自治会にしか情報を流れなかったが、この支部を通じて、情報を流し、そのうえで地区のまとまりを築こうとしている。
- ・ 17支部の規模は地区祭の規模、範囲とも合致している。このくらいの規模ですべての地域の団体が連携できれば、地域コミュニティが活性化するのではないかと感じている。

座長

- ・ 地区祭では団体間の連携が取れているので、こうした規模での連携が取れば、コミュニティが活性化するのではなかというご意見だと思う。
- ・ 個々のコミュニティで見ると活性化していないわけではない。団体にはそれぞれ得意な分野や不得意な分野があり、不得意な分野の活動だけを見ると、活性化してないような気がするが、とりあえず得意な分野で活動し、不得意な分野の活動を他の団体が補うなど、役割分担を整理することで、地域が活性化するというイメージもできてくる。
- ・ 他にご意見はあるか。

〇委員

- ・ ママ友を中心としたコミュニティと敬老館などに入出入りしている高齢者の方のコミュニティなど、個々のライフスタイルによって、コミュニティに対する考え方が大きく違うと思う。また、時代によってコミュニティの解釈も違うので、これらのコミュニティを必ずしも一緒にする必要はないと思う。
- ・ 中高年の方は、趣味でつながるコミュニティが非常にたくさんできており、生き生きと活動している。
- ・ 練馬区は地方の県以上の人口を抱えている。これだけ大きな自治体なので、一つのコミュニティを作るのは難しい。色々なコミュニティがあって、それらをどのように広げていくかということを考える必要があると思う。

- ・行政は縦割りであり、老人クラブや地区区民館、敬老館、PTAなど、担当する部署がそれぞれ違う。地域は横割りだと思うが、つながっていないのが現状である。これがつながると違った形が見えてくるのではないか。
- ・豊玉高齢者センターは地域コミュニティとして大きな役割を果たしていると思う。一日平均300人くらいの高齢者が来館して活動している。敬老館や地区区民館、集会所とは違う役割を担っている。自主サークルも90団体有り、町会とは違うコミュニティを形成している。
- ・区が発行している地域福祉情報の冊子を見ると、区は様々なことを実施していることが分かる。ただ、区民が知らないということが多い。地域や行政からの情報に無関心な人をどうするかが大きな課題である。
- ・ある社会学者が、情報化が進むほど身近なものは遠くなり、遠くのものとは身近になると言っていた。身近なものとは親子であり、家族である。遠いものとはネットコミュニティのつながりなどだと思う。コミュニティには様々な形態があるので、一筋縄に解釈してはいけないと思う。

座長

- ・すでに個々に活発に活動している団体があり、何もしてない人が、こうした活動に参加していくことが活性化した状態であるというイメージは、共通の認識だと思う。
- ・ただ、これまで出された意見では、活発に活動している団体同士をつなげていくことが活性化になるのか、無理につなげなくても良いのではないか、つなげようとするから大変であって、つながることは活性化にならないのではないか。更に言えば、活性化としてつながる状態とはどういうことなのかが問題のように感じる。
- ・町会では、地域に趣味の会がたくさんあるのに、その方々が、なぜ町会には加入してくれないのかという思いがある。逆に、町会に必ず加入するとなると負担になってしまう。どのようなつながりの関係が活性化になるのか、ご意見があればお願いしたい。

O委員

- ・町会といっても、その規模や活動の内容、活発度などは様々である。
- ・町会の主催で趣味の会などを始めて、関心のあることを通じて加入してもらってはどうかという提案もしたことがあるが、古い役員の方々に、それは町会の役割ではないということと言われてしまう。こうしたことが、町会が時代の流れに上手く乗れない要因の一つではないかと思う。

座長

- ・他に意見はあるか。

R委員

- ・この会議が設置された意義については、それぞれ活発に活動している団体があり、それをどのようにつなげるのかということで、各活動団体の代表者が参加されていると思う。

- ・こうした団体同士をつなげるという議論よりは、そもそも論として、世の中の出来事として以前には無かったことがいっぱい起きている。先ほどの意見にもあったが、様々なメディアが発達する中で、近くにいる人が疎まれてきていることもその要因の一つである。
- ・若い方から高齢の方まで年齢層に関係なく、個に引きこもる傾向が強くなっている。
- ・また、非常に残念なことに年間の自殺者の数が交通事故死の数よりも多く、月にすると約3,000人、一日あたり100人以上が自殺しているという状況である。
- ・こうした現状の中で、地域の活性化をこれまでの議論の中で考えていたら、追いつかなくなってきたのではないかと感じている。
- ・八王子市の「市民会議」の動きに興味がある。「市民会議」は10年スパンで自分達の住むまちをどうしていくか、一人ひとりがまちに住む覚悟をどのように持ったら良いかを考えている。200人ぐらいの市民と30人ぐらい行政の職員が参加して一緒に議論をしている。10ぐらいのテーマがあって、市民の方が参加して議論をしている。このようにきちんと議論を重ねていくこと、その過程がコミュニティの活性化にとっても意味があることだと思う。
- ・自分達が練馬に住む覚悟を持つことで、それぞれの役割も見えてくると思う。自分のことだけではなく、隣の人のために何ができるか、子ども達やお年寄りのために何ができるか、役割が見えてくるまで議論をしていくことが大事だと思う。このような議論に進んで参加できる体制と入口、囲いをどのようにしていくかという議論をしないと活性化のイメージもなかなか共有できないと思う。
- ・今回の懇談会と並行して行政内部でも検討組織を設けて議論している。区も必死になってコミュニティの活性化を考えている。そうしたことを踏まえ、この懇談会でも、個別の団体の活性化ということだけでなく、もう少し大きな視点で懇談会の議論をどこへ持っていくのか検討することが必要だと思う。その際、区民が自ら参加し、議論を重ねることができる場と、それぞれが関心のあるテーマで議論できるようテーマを細分化できれば良いと思う。その議論の過程の中で、コミュニティの活性化というものを考えることができれば良いと思う。

座長

- ・前半の部分は、人と人のつながりが希薄化することで様々な問題が起きている。そうした人と人とのつながりを持たなくなっている人達に対して、どのように対応していくのかを考える必要があるという意見だと思う。後半の部分は、そうした人達を含めて、区民自身が住んでいるまちのことについて考える場をつくっていくことが必要ではないかという意見だと思う。
- ・特に前半のご意見とも関連するが、地域に参加できない人がいて、この部分が活性化してないので問題があるといったご意見も含めてご発言いただきたい。地域で活動したい人だけが活動すれば良いということであれば、様々な場があって参加ができれば

活性化ということで済むが、地域に出てくることができない人がたくさんいることが問題であるとすれば、活性化のイメージも変わってくる。

- ・今の練馬区の状況を踏まえ、地域に参加できない人がいて問題があると感じているような意見があれば伺いたい。

○委員

- ・大泉地域と光が丘地域ではそれぞれに地域の特徴があり、コミュニティに対して求めるものが違うと思う。もっと地域別にしばって議論ができれば、地域の特徴に合わせた議論ができると思う。
- ・私は、大泉地域で様々な経験者を集めて会をつくり、地域の各団体がどうすれば上手くつながり、相乗効果を上げることができるか検討しているが、なかなか難しい。前回も話をしたが、地域包括支援センターが「ミニ地域ケア会議」をつくったことで、地域の民生委員と見守り訪問員がつながることができた。つながることで、今まで無かった新しい行政サービスや見過ごしていたことなどにも気づくきっかけになると思う。

座長

- ・練馬区は広いので、様々な形できめ細かく取り組みつつ、話し合いを重ねていく必要があるとのご意見だと思う。
- ・民生・児童委員でもあるF委員から、民生委員の立場としてのご意見を伺いたい。

F委員

- ・地域での高齢者のケアについて、見守り訪問員、民生委員、民生協力委員の3本立で取り組んでいるが、なかなか連携がとれていない。一生懸命取り組むことは良いことだが、きりが無い。見守り訪問員は週1回一人暮らしの方を訪ね、用事があれば民生協力委員も訪問し、民生委員も顔を出している。こちらは気をかけて行っていることであるが、訪問される方の中には、何度も訪問されることを嫌がる人もいて、難しい面がある。また、「民生委員です」と言われることが嫌という方もいるので、別の呼び方をすることもある。見守り訪問員とは区の担当部署も違うことから連携をとることが難しい。また、見守り訪問員は公募のため、地域によってはいないところもあるので、一律に連携がとれない状況である。

座長

- ・活性化を考えた場合、いくつかの段階があると思う。色々なことに取り組みたいが、まだそのような場が少ないので問題という段階。また、活動する場はたくさんあるが、取り組みが重なって無駄な部分があったり、代表者がいくつもの会議に出席をする状況で、その人達が疲労していたりして、そうした調整ができないことが問題という段階。あるいは、地域に参加できない人をどう取り込んでいくかが問題の段階。それぞれの地域によって段階があると思う。委員の皆さんの身の回りの活動や地域で課題になっていることがあればご発言いただきたい。

P委員

- ・私は、自分達のマンション管理組合の中でのコミュニティはつくっているがそれ以外の団体との接点はない。自分は区の事業や小さな団体の活動にも参加し、区内の情報を取っている方だと思うが、それでも委員の皆さんの活動が活発であり、地域の中でコミュニティができあがっていることなどを知らなかった。知っていれば、参加しようとする気持ちも起きるのではないか。
- ・資料2で「いつでも区との連絡が取れるようになっている状態」という文言がある。ある時期までは行政が地縁団体に話をすれば、行政の情報が住民全体に伝わった状況であったと思う。そうした状況から見ると、町会の加入率が4割程度ということは問題かもしれないが、それでも5割に近い人が町会に加入しているということは、大変なことだと思う。実際に地域で活動する人がその半分だとしても、区民の4人に1人が何らかの地域に関わっていることであり、素晴らしいことだと思う。
- ・もっと他の活動を知ることが大事だと思う。町会や防災訓練などの地域の情報を、自分達でも取らないといけないと思っている。

座長

- ・他に意見はあるか。

I委員

- ・学校の校長先生が保護者の方に「ここに来ている保護者の方は心配ない」と言っている。会議や行事に参加してくれる人達は、興味を持っていて、情報を取ろうとか、連携を図ろうとかいう意識がある。PTAに長いこと携わっているが、無関心な方にどれだけ必要性を理解してもらうかが課題である。
- ・以前、中学校PTA連合協議会の新しい事業として、子ども達が臨海学校で宿泊する施設を見学行くという事業の提案があった。しかし、「行事が増える」「一日拘束される」「子供達の活動に何か役に立つのか」などの意見があり、実施することはなかった。
- ・コミュニケーションの捉え方は千差万別である。ホームページを見ただけ、コミュニケーションが図れたと考えている方、テレビを見るだけで、社会とつながっていると考えている方、それだけでは不安で色々な活動している方もいる。そうした中で、無関心な方々に、どのように活動を理解してもらい、参加してもらえるかを考えていく必要があると思う。
- ・PTA連合協議会に加入して何の意味があるのかという話も聞く。子どものことで問題があれば、教育委員会と直接話をすれば良いという方もいる。会長の中にもホームページや手紙だけで情報の交換をすれば良いという方もいる。
- ・そうした状況の中で、本日の会議の中で「顔の見えるつながり」が大事であるという話を聞いて安心している。連携というのは、足を運んで、顔を見て意見を伝え、話を伺っていくというのが大事であると思う。

座長

- ・団体の中には、一人で困っている人やつながりを持っていない人に声がけをしていくというような活動をしている団体もあると思う。また、委員の中には、無関心層や参加意欲があっても参加してない方への働きかけをしている方、あるいは、そういう経験がある方がいると思うので、考えていることがあればご意見を伺いたい。

〇委員

- ・無関心層を引っ張ってくることは並大抵のことではない。練馬区や東京都の意識調査でも社会貢献や地域活動をしたいという意向は高い。ただ、どのような活動があるのか、どこに情報があるのか分からないということがある。同じエネルギーを使うなら、少しでも関心を持っている人をターゲットにしたほうが良いと思う。
- ・最近、地域に賑わいが無くなったと感じている。昔は、盆踊りやお祭などに、子ども達といっしょに出かけ、そこで色々な人と親しくなった。こうした大勢の人が集まる行事が少なくなってきた。
- ・一方、大泉地域では大泉落語研究会があり、定員 60 人のところに 100 人くらいの方が来ている。また、大泉おやじバンドなどもある。こうした活動を地域で応援して、地域で賑わいを取り戻すことも必要だと思う。

座長

- ・地区祭のこと、地域について話をする機会を持つこと、様々な情報を知ることなど、地域の様々な活動をつなげたり、活動する場を持っていない人が持てるようになっていくために、仕掛けが必要であるという意見が出てきている。
- ・区では地域活動を支援する拠点の整備という話もある。場があるということは重要な気がするが、どのような場所にどの程度の規模であるとなつながら易く、あるいは、関心のある人が集まってきてくれるのかなど、日頃の活動の中で思うことがあれば伺いたい。

D委員

- ・練馬区の人口 70 万人を一括りにすることは難しい。ただ、これだけの様々な活動があるので、大きなピラミッドを作って連携してまとめていくこともできると思う。
- ・クラウドコンピューティングが次の世代のネットワークとして始まってきている。こうした仕組みもあって良いのではないか。人と接することが嫌いな人でも携帯電話ではつながっているという状態は、10 年後、20 年後にかなり出てくると思う。あまり形やハコモノにこだわらずソフトの仕組みを考えていく必要があると思う。

座長

- ・区の方に確認したい。区としては地域のそれぞれの活動といざという時も含めてつながりを持っていたいという意向があると思う。かつては、町会や自治会を中心として、地域のほとんどに情報が届いていた。今では、町会・自治会の加入者も半分程度となり、地域の状況が見えづらくなってきた。行政としては、そうした不安は持っていると思う。

- ・区がクラウドというものを担保していて、色々な情報を持っていて、いざという時に、それを使って情報を流すという仕組みもあり得ると思う。
- ・個々の活動が活発で、いざという時にそれらをつなげる装置的役割が行政にはあると思う。行政側から見て、現状の区民の活動がどのように見えていて、どの部分が見えづらいのかなどがあれば教えてもらいたい。

事務局

- ・区としては、例えば区から地域に様々なお願いをしている中で、現時点において地域がつながっていないことで区が困っているという状況はあまりない。町会、自治会、PTA、地域の様々な活動団体が活発に活動していると思っている。ただし、団体の担い手不足のことや、NPO団体の活動が広がらないことなど、様々な課題がある中で、今後地域の課題が解決できない場面が出てくるのではとの危惧は持っている。
- ・一つの例であるが、現在区では、区民から事業提案を受けて、提案団体と区が協力して取り組む協働事業提案制度を実施している。その事業の一つとして、認知症介護家族の悩みに認知症の介護を経験された方が相談に応じる事業を行っている。認知症介護の家族の方が一人で悩まず、相談してもらうことにより、介護家族の負担の軽減を図るものである。相談する場がなく課題すら挙がってこない状況や、区としても全ての課題を拾いきれない中で、区民の方が自ら立ち上がり、課題の解決に取り組んでいる。地域では町会・自治会の方なども普段から気にかけていただいていると思うが、それぞれの家庭の事情もあるので、なかなか難しい部分がある。そうした中で、その家族の気持ちが分かる方達が、経験を活かしてきめ細やかな対応をしている。このように、かつては地域のつながりの中で解決できていたことが、なかなか難しくなってきた部分について、もう一度地域の中で、人と人、団体と団体が、顔の見える関係をつくり、お互い様の関係の中で、地域全体が支え合って行ければ良いと考えている。
- ・何らかの対応を考えていかなければならない地域の課題を、町会・自治会や地域活動をされている方が対応している。そういった部分を区も把握していけるような仕組みができれば良いと考えている。

座長

- ・区としては今すぐにはそれほど問題はないが、団体の担い手のことなど徐々に問題として出てくるのではということ、また、区がすべての状況を把握することが厳しい部分があり、その部分は区民からの問題提起をしてもらい、協働で課題の解決を図っていくことがスムーズにできれば良いというイメージで良いか。また、様々な活動の情報が集約される場として拠点があり、その場には相談役・調整役といった方がいて、地域全体の状況を把握できている。更に、拠点や相談役・調整役の方からの団体活動への支援もあって、様々な団体が活発に活動しているというイメージで良いか。

産業地域振興部長

- ・現在活動をしている人達の後継者が居ないという課題がある。こうした状況を改善し、

活動を継続させていきたい。

- ・ もう一つは、地域活動に参加していない人達、昔は隣組などがあり、隣人同士は顔見知りであった。趣味の活動を通じてつながることも大切であるが、何かあった時に住んでいる地域で助け合える顔見知りの関係が崩壊しているという課題がある。近隣に住む人と人との顔の見える関係をつくっていきたい。

座長

- ・ 他に意見はあるか。

L 委員

- ・ 地域コミュニティの活性化のイメージについて、前提として、表面化していないが社会に深く潜ってしまう問題はいっぱいあると思う。高齢化による孤立や自殺の問題、虐待の問題などもある。こうした問題は地域のつながりが希薄化したことが一つの大きな要因になっているのではないか。
- ・ 地域コミュニティの活性化のイメージは、地域の課題を顔の見える現役の住民の方々が、自分達の課題として意識し、主体的に地域で解決していくということだと思う。地域の中の町会・自治会、学校関係、NPOなどの団体が横につながって「地域の力」を発揮できれば、潜在化してしまう地域課題の予防にもつながると思う。住民が主体的に課題の解決を考える体制をつくるのが活性化のイメージではないかと思う。

座長

- ・ 他に意見はあるか。

K 委員

- ・ NPOは自分達のやりたい活動をし、満足すると終わってしまう。こうしたことから、NPOの切り口からコミュニティの活性化を考えることは難しいと思う。
- ・ 地域活動に参加しない人をどのようにコミュニティにつなげることができるかが問題だと思う。例えば、町会は加入した人を対象に地域の情報を流している。様々なアンケート調査の結果では、地域活動の情報がないから参加しない人というがいる。こうしたことを踏まえると、町会への加入・非加入に関わらず、情報をすべての人に提供することが大事ではないと感じる。
- ・ 地域には様々な団体があるが、地域の基盤となるのは町会だと思う。町会を基盤として、全ての人に情報を出し、その情報を共有できるようになれば、色々な動きもできるようになると思う。そのあたりを考える必要がある。

座長

- ・ 他に意見はあるか。

O 委員

- ・ 区には、災害時に支援が必要な方にあらかじめ登録してもらおう制度がある。しかし、人の世話になるのが嫌で手を挙げない人もいる。また、地域の中で、自分のことを知られたくないという方もいる。そうした方に登録してもらおうことは難しく、いつも課

題になっている。ただ、地域の人達は支援が必要な人が地域に住んでいることは知っている。

座長

- ・色々と活発なご意見いただいた。その中で、少しずつ練馬区の現状や求められているものが明らかになってきた。
- ・一点目は、区内の個々の団体などの活動は活発に行われており、それなりに活性化しているということが分かった。ただし、これから先は担い手の問題など含め、余裕がないかもしれない状況であること。また、活動を活発にしているわりには、お互いにあまり知られていない、区民にも知られていないということが挙げられる。
- ・二点目は、地域活動をしない人、地域に出て来ない人をどうするかについて、旧来のような地域のつながりが難しくなってきたがゆえに、近所でのつながりが弱くなってきて不安であること。この部分を何とかしなければいけないとうことである。ただし、この部分を活性化することは難しいところで、昔のような顔の見える近所づきあいに戻すということだけでは済まなくなって来ている。町会・自治会や民生委員は、そうした状態に戻そうと思って活動をしているが、思い通りにならない部分が出てきている。この部分が大きな課題であると思う。
- ・私の意見であるが、様々な地域を見てきた経験からすると、無関心層や地域で孤立している方への対処の方法が2つあると思う。
- ・一つは行政などの公的なものが関わるということである。ただし、公的なものが公的に関わるとなかなか上手くいかないところがある。公的な位置づけを持った人、公的な機関と連携している民間のボランティアが入ることで、解決の道を開拓していくということがある。
- ・もう一つは、自ら進んでこうした部分の課題を解決しようとする民間の団体が出てくるということ。この動きは、問題の大きい地域では出てきているが、練馬区の場合はそこまで大きな課題ではないのか、そうした団体が出てきていない印象である。無関心層へのアプローチや地域で孤立している人達をどのように掘り起こすか、以前のように民生委員や町会・自治会だけが対処するだけでは上手くいかなくなってきているので、別のボランティアの活動で、その部分に関わっていく、ボランティアを育てることや活動領域を広げていくことが活性化の課題として挙げられると思う。
- ・その手段として、話し合いをする機会を持つこと、地域の行事を活用すること、情報を発信していくことなどが挙げられていたと思う。そうしたことを、つなぎ合わせていくと、提言になるのではないかと考えている。
- ・本日は、地域コミュニティが活性化のイメージということで議論する中で、ある程度課題が見えてきたように思う。
- ・次回は、顔の見える近所づきあいの部分で町会・自治会がこれまで果たしてきた役割、これからの町会・自治会に求めること、他の団体と町会・自治会が連携すれば対応が

できそうなこと、あるいは、区が支援をすることで何とかなることなど、本日の話の延長の中で、町会・自治会が持っている地域の力を、どこまでの当てにできるか、どのように支援するかなどを、次回議論できれば良いと考えている。

- ・まずは、町会・自治会に期待すること、このようになって欲しいなどの議論をしたい。また、町会・自治会に関わっている委員の方々には、現場の課題や将来の展望などについて、意見を伺いながら意見交換をしていきたい。
- ・先ほどの私の整理は、活性化の提言の大枠になっていくものだと思うので、事務局として整理してほしい。何となく提言のイメージ、見通しもできてきたのではないかとと思う。

6 その他

事務局

- ・今回は8月11日の木曜日を予定している。

座長

- ・最後に何か意見があるか。

C委員

- ・この懇談会は、区民から色々な不満があって始まった話なのかなと思っていたが、区としてはこれからの課題の話ということだった。ただ、本日の議論を聞いていると現在の活動でもかなり問題があるように思う。先ほども町会の話でイベントには人が集まるという話だった。ただ、町会も年中イベントをしているわけにもいかない。
- ・町会の加入率40%を超えているが、その人達が引っ張って行く話でもないと思う。町会だけでなく、地域に関わる団体も少し「困った困った」と言っている程度が丁度良いということもある。これらをまとめようとする苦勞をしようと思う。

事務局

- ・それぞれの団体の方々が大変な状況でご苦勞されていることは、意見もいただいております。区として十分に理解しているつもりである。そうした団体の苦勞を軽減することも、この懇談会を設置した理由の一つである。先ほどは、区が地域にお願いしている部分に関して、現状では何とかなっているという意味で発言をした。区としても個々の団体のご苦勞は理解しているつもりであり、本日の資料2の「区が考える主な課題」でお示ししたとおり、地域の皆さまや各団体の現状の課題について、認識しているつもりである。

座長

- ・学校選択制の話はどうか、教育委員会の方針もあると思うがどうか。

区民生活事業本部長

- ・一つのご意見として貴重なご意見である。学校選択制だけでなく、中学生になると私立に行く生徒の数も多い。地域コミュニティ形成のなかで小中学校のことを考えた場

合、子どもを通じて地域社会に参加して行くので、中学まで続く連続性は非常に大事な点である。貴重なご意見として受け止めさせていただく。

- ・この懇談会では、高齢者のことや障害のこと、孤立化のこと、子どものことなど世代を超えてのコミュニティについて引き続きご議論をお願いします。

座長

- ・色々な議論をしていく中でご意見をいただければと思う。必要であれば教育委員会の方針をご紹介いただくこともあるかと思う。
- ・以上で第3回懇談会は終了する。